

東日本大震災救援活動

平成23年(2011年)3月11日午後2時46分頃、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、東日本各地に未曾有の被害をもたらしました。

日本赤十字社はこの災害に対し、即座に災害対策本部を設置し、被災地にある日赤宮城県支部等に職員を派遣しました。

日本赤十字社広島県支部では、被災者救援のため同日午後6時ごろ支部職員と広島赤十字・原爆病院の医療救護班(医師・看護師・薬剤師・主事《事務》)を第一班として被災地に向け派遣しました。

また、庄原赤十字病院、三原赤十字病院の医療救護班及び広島県赤十字血液センター、日赤広島看護大学の職員も被災地に入り救護活動を行いました。



被災地に向け出発する医療救護班
(平成23年3月11日)



被災地の様子
(平成23年3月15日石巻市内)



被災地の様子
(平成23年3月15日石巻市内)



被災者の避難所となった宮城県石巻市内の小学校(平成23年3月15日)

東日本大震災救援活動

日本赤十字社では、全国の赤十字施設から約600班の医療救護班を岩手県・宮城県・福島県・茨城県の被災地に派遣し、救護所の開設、避難場所の巡回診療、こころのケア活動など救護活動を組織的にを行っています。

日本赤十字社広島県支部では、発災直後から13班延べ約400名を被災地に派遣し、救護にあたっています。この活動は、現在も続いており、被災地の医療施設・医療活動が復旧するまで続きます。

平成23年4月27日現在。



現地災害対策本部(石巻赤十字病院内)でミーティングを行う全国から集まった救護班要員



石巻専修大学体育館の日赤救護所の様子。
ライフライン切断のため、照明等は自家発電。
(平成23年3月17日石巻市内)



避難所となった中学校に向かう日赤救護班
(平成23年3月16日石巻市内)



避難所を巡回診療中の日赤救護班
(平成23年3月13日石巻市内)

東日本大震災救援活動

発災直後はライフラインの断絶により、医療活動に必要な電気や水を得ることができません。巡回診療に必要な車両の燃料の確保も非常に難しい状況でした。さらに情報発信・収集のための携帯電話も使用できませんでした。

そのため、日赤医療救護班は「自己完結型」を原則とした救護活動を行っています。

自己完結型の救護活動とは、医療行為のみならず現地での活動に必要なものを全てを非被災地で準備して現地に持ち込み、被災地には一切負担をかけない活動のことです。これは、発災直後の被災地での救護活動の鉄則とされています。



救護活動の様子
(平成23年3月14日石巻赤十字病院)



被災地の様子
(平成23年3月24日石巻市内)



救護活動の様子
(平成23年3月14日石巻赤十字病院)



発災直後は、携帯電話がほとんど使用できない状態だったため、衛星携帯電話を使用して情報の発信・収集を行った。

(平成23年3月17日石巻市内)

東日本大震災救援活動

日本赤十字社では、被災地での医療支援活動以外に、毛布などの救援物資の配付、「こころのケア」活動、要介護高齢者への支援活動をはじめ、義援金の募集・受付、ボランティアによる被災者支援活動、仮設住宅への生活家電セットの寄贈様々な活動を行っています。

今後、長期化する避難生活の中で被災者の方々の健康面やとりわけ精神面での支援はますます必要となっています。

また皆様からお寄せいただいた義援金については、その全額が、被災された方々に届けられるよう、被災都道県の義援金配分委員会への送金が始まっています。



被災地へ届けられる毛布
(©2011日本赤十字社)



被災された方々には、赤十字から毛布や緊急セット、安眠セットなどが配布されました。これらの災害救援物資は、皆様からの寄付で整備しています。(石巻市内)



日本赤十字社は、避難所の子供達の「こころのケア」活動も行っています。



石巻赤十字病院に建てられたエアテント内では、安否情報や病院に搬送された被災者の情報提供も行っています。



義援金は全て各被災都道県ごとに設置される「義援金配分委員会」を通じて、被災された方々に配分されます。

(平成23年4月17日マツダスタジアム)

東日本大震災救援活動



石巻赤十字病院。入院ベッドが足りないので、廊下に簡易ベッドを広げ患者を収容している。
(平成23年3月18日)



被災者を診察をする日赤救護班
(平成23年3月19日石巻市内)



被災者を診察をする日赤救護班
(平成23年3月19日石巻市内)



被災者のけがの治療を行う日赤救護班
(平成23年3月20日石巻市内)



被災地の様子
(平成23年3月15日石巻市内)



石巻赤十字病院の正面玄関付近に設営されたエアテント。トリアージにより軽症と診断された患者の治療が行われた。

(平成23年3月16日)



被災地の様子

(平成23年4月13日石巻市内)



避難所に設置された仮設トイレ。下水処理施設が復旧していないため、衛生状態は極めて悪い。

(平成23年3月25日石巻市内)



日赤救護班は、病院会議室で雑魚寝。交代で仮眠をとる救護班。

(平成23年3月15日石巻市内)



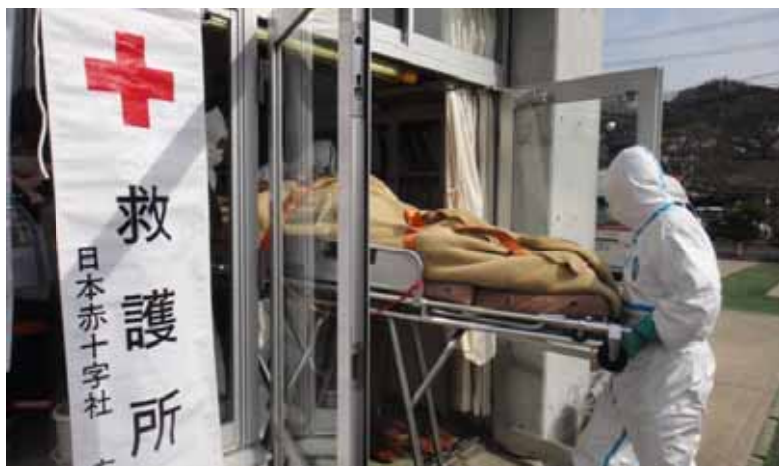
被災地の様子

(平成23年3月15日石巻市内)



サーベイチェックを受ける日赤救護班。
福島県内で活動する間は、毎日放射線量の
チェックを行う。

(平成23年3月13日)



福島県内に設営された日赤救護所
(平成23年3月13日)



宮城県内の医療活動拠点となった石巻赤十字病院。
平成18年に移転新築された。建物は免震構造。
病院職員や職員の家族にも被災された方は多い。
(平成23年3月14日)



石巻赤十字病院の1階ロビー。
ロビーでも診察・治療がおこなわれた。
(平成23年3月14日)



被災地の学校の教室
(平成23年3月15日石巻市内)



被災地の様子
(平成23年3月25日石巻市内)



被災地の様子
(平成23年3月25日石巻市内)



被災地の様子
(平成23年3月25日石巻市内)



日赤救護所の薬。発災から日にちが経つにつれ
急性期より慢性期の患者が多くなった。
(平成23年4月2日石巻市内)



これから向かう巡回診療の打合せを行う。
(平成23年3月16日石巻市内)